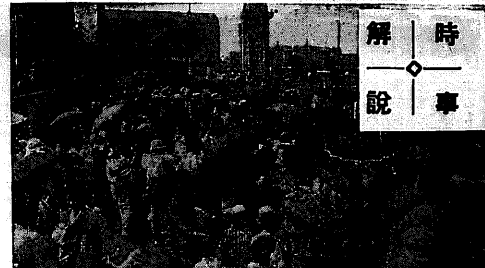


時事解説



東京市電争議は議争か敗戦

問 東京市電争議は、従員側が修敗し... 修敗か否かは観方によつて異なると思ひます。若し減給が行はれた事を以て修敗といふならば、それは必ずしも修敗では無いと思ひます。一體新開は、問題の本質を傳へるといふよりも書き方が面白く興味本位で、すべて皮相的な取扱ひをしますから、無暗に修敗々々等と書き立てますが、私共はもつと深く問題を考察する必要があると思ひます。

答 御承知の如く東京市電は七年度に於て八百四十萬圓に於て居ります。斯様な行は、何處に原因があるかと云へば、市電年度の配賦経営、路面電車行、及び交通政策の不統一に歸する事は、衆論の一致するところなのです。配賦を経営によつて、現在市電は二億圓の借金を背負つて居ります。利息と償還費を加へて一ヶ年一千六百三十五萬圓を計上して居る有様です。然るに、省線、バス、地下鉄、回タク等の壓迫を受けて、市電の乗車賃収入は年々減少の一途を辿り、大正十一年

の如きものが必要です。又、労働關係に於てもこの際合理的な根本策を樹て今回はあるで、この方面には何等の具體的な努力の跡が見へません。一時滿了したに過ぎんといふのはこの事ですから、再議案が提議であるとはどういふ意味ですか。

答 一言、お断りして置きます。世の中には正しいこと必ずしも可能ならずといふ場合の多いことです。正しいことが直ちに可能であるならば資本主義も現存する筈がありません。市電の場合に於ても然りでは、従員側の要求が正しいといふだけでは、それをどうすることも出来ません。市電當局者の配賦の尻拭ひを、従員側の方に負はして何十年も動も得た月百圓見當の収入すらも、高いだの出し過ぎだのと言はれて居ることを考へると、誰でも遺憾を感じますが、當面の問題でも有利に解決し、更に將來一層有利な立場を進んで進むには、そんな原則論では駄目です。冷静に周囲の状況を判断して、出陣進退を定めねばなりません。今回の争議は未會有と言つても良い程の輿論的支持を得て居りました。斯くて開催された調停委員を決定せしめ、再ストライキに依つて、それ以

上のものを獲得することが困難であることは、常識上判断が出来ます。故にこれは委員側の日数を延ばしても、これを決定せしめず、最少の減給率にする爲に努力する必要があると思ふのです。そして、或程度の減給は止むを得ないので、これを認め、その代りに前にお話しした様に、より恒久的な對策に一步を進むべきだと思ひます。問 関係者が不手際であつたと書ひますか...

答 私は委員会に立會つたわけではありませんが、何とも言ひ兼ねます。が、率直に感想を述べると、解決を餘り急がずに、日数を延ばすべきであつたこと、目前の解決のみでなく、將來の對策も示すべきであつたこと、この二つに對してどうも遺憾な點があつた様に見受けました。今回の争議は、始めは堂々として開始され、堂々として進行したにも拘らず、終りを全くなかつた事は、返す返すも残念であります。これは労働組合の最も教訓として學ばねばならぬ點であります。たゞ「勝利」だとか「修敗」だとか簡単に言ひ切つて満足すべきものではありません。(カトリック市電争議解決のため)

往年秋田製材労働組合が總同盟に加盟するに、鈴木頼則、赤松君等と一所に秋田縣船代港へ行くつてから、かれこれ十二年振りの船代訪問ではあつた。今東北地方唯一の労働組合が船代港の一角に建設され、その開館式にそつと、九月十日の夜行で上野を出發し、翌十五日の午後一時船代着

外野より組合主催の茶話會に出陣。約百名の組合員が集まれ、質問應答に賑やかだつた。久々に往時の同志に逢ひ、又新しい組合員に接し、實に感慨深いものがある。當時を思ひ出せば、組合の總會は、公園の花の下で開かれ、あかあま宴會の感じであつたが、今は全く隔世の感だ。内容にも形式にも、近代化的な充實さ自主的な運動方針を持ち、他の組合に比して遜色のないものであつた。



秋田製材労働組合 館めぐり (12) 秋田製材労働組合が總同盟に加盟するに、鈴木頼則、赤松君等と一所に秋田縣船代港へ行くつてから、かれこれ十二年振りの船代訪問ではあつた。今東北地方唯一の労働組合が船代港の一角に建設され、その開館式にそつと、九月十日の夜行で上野を出發し、翌十五日の午後一時船代着

開館式當日は、十六日午前九時から、幹部一同參集、神官を招待して小講堂で献花禮を式が厳に行はれ、正午より町の有志、若長代理、組合員百三十名の觀衆の中に開館式は挙げられた。式後二階で祝賀の會が開かれ、會館の前途の多幸を心から述べた。かくて、久々に東北の同志の地についた運動を具、その生長を祈つて、十七日東京の途についた。(松岡君) (新會館の前にて寫す)